**説教20230521一ヨハネ5:9-15ヨハネ17:11-19「喜び満ちあふれ」**

**命には、この地上で終わってしまう命と、永遠に続く命との二つがありますが、皆さんは、どちらが欲しいですか、と幼稚園の子どもたちに聞いたなら、恐らく喜びに満ち溢れて、皆さん、もろ手を挙げて、「永遠の命です」と答えてくれることでしょう。**

**そして、次に、「そうですね、そしてそのほんものの永遠の命は、私たちがイエス・キリストさまを信じて、彼についていけば、彼から与えられるのですよ」と語れば、少なくとも大人たちよりは簡単に、この真実を受け入れてくれるものと思われます。**

**この様に、幼い子供なら受け入れられる真実を、何故大人たちは受け入れがたいのでしょうか。**

**その一つの答えを、今日の聖書箇所に見いだせます。ヨハネの手紙一　5章 14節**

**何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。**

**これは、私の願いをなんでも叶えて下さい、といういわゆる信仰なのではなくて、それとは全然違う、神様の願いこそがかなえられますようにと言う信仰を言っているのです。永遠の命の話に戻れば、神の御心に適っている私たちの願いとは、次の様になります。「神様、私に永遠の命を恵んで下さい。イエス様についていきます。」という願いになります。父なる神様は、傷つき悲しんでいる私たちに対し、永遠の命を与えたがっておられます。それが神の御心であります。だから私たちが、子どものように、主イエスに向かって「永遠の命を恵んで下さい」と言って助けを求めてすがりつくことは、大変御心に適った　よい行いなのであります。**

**大人の話に戻りますと、一昔前の、教育熱心な親たちならば、我が子に対して、「永遠の命とか、夢のようなこと言ってないで、ちゃんと勉強しなさい」と一蹴をすれば済んでいたのでしょうが、昨今の社会情勢を見ていますと、そんな簡単にはいかなくなってきているということは、誰の目にも明らかな事でありましょう。既存の価値観が根底から覆されようとしている今、私たちは勉強をすることはとても大事ですが、その勉強する中身を問い直していく必要に迫られていると思います。**

**そしてその勉強する中身とは、複雑な事ではなくて、単純に次の事柄であります。**

**ヨハネの手紙一5章11-12節**

**その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、そして、この命が御子の内にあるということです。御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません。**

**ということであります。**

**とにかく私たちは今、この永遠の命ということについて、大人から子供に至るまで、大真面目に、様々な語り口によって、宣べ伝えていくべき時期に差し掛かっているのです。**

**果たして、私たちは朝に夕に、毎日イエス様に向かって、「このわたしに永遠の命を恵んで下さい」と言ってお祈りできているでしょうか。たまにしか、そのように祈っていないという方は、是非、毎日、この祈りを祈ってみてください。不思議なことに、神様はこの御心に適ったあなたの願いを、すぐに、そしてただで叶えて下さり、喜びに満ちあふれながら、あなたを、永遠の命の道であるイエス様の道へと連れ戻して下さるのです。**

**聖書には次のような証しが記されています。使徒言行録１７章になりますが、パウロが伝道旅行をしてアテネの街で福音を述べ伝えていたときのことであります。**

**死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、「それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう」と言った。それで、パウロはその場を立ち去った。**

**しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた。**

**アテネと言うところは現代文明の発祥の地と言われ、このあざ笑った人と言うのは、現代社会にも沢山見出されるでしょう。当時のアテネの街の有様が、現代の世の中の生き写しの様に眼前に迫ってきます。**

**しかし、そんなアテネの街においても、何人かは、パウロのいうことを信じてキリスト信仰に入り洗礼を受けたのでした。これもまた、現代社会でキリストが静かに宣べ伝えられている有様と同様なのであります。**

**今迄、子ども達のことを想いながら、語ってきましたが、この説教を聞かれている人の大半は大人たちでしょうから、これからは、大人たちに焦点をあてて、語って参ります。**

**先週の説教では、私たちは皆、神に対して罪人であり、、洗礼を受けて、イエス様と共に生涯を送ると告白をしたのちも、時に、イエス様から離れてしまって、神の愛に留まっていることが出来ない時があるということを語りました。しかし、そんな罪人である私たちが、悔い改めて罪の赦しを乞うために再び身元へと戻って来る時、私たちは、前にもまして神から喜ばれ、祝福され、守られる、ということをお話しました。。大人と言うのは、子どもよりも、この地上で生きている時間が長いですから、当然、そのように神に対して罪を犯してしまっていることも多いのであります。つまり、この世での私たちの生涯とは、知らない間に罪を犯し、何故かイエス様と共にいられなくなり、身元を飛び出し、巷をさ迷い、そして再び、御言葉にきずかされて、自らの罪を悟り、打ち砕かれて、悔い改めて、イエス様のもとへと立ち帰るということの繰り返しなのです。イエス様は、私たちがこの世で犯してしまったどんな罪でも、それを永遠の罪に定めようとはされず、身元へと立ち帰るものを豊かに赦し、前にもまして祝福をお与えになりたがっているお方であります。**

**そこら辺のイエス様の切なる思いが次の聖書箇所に現れています。**

**ヨハネによる福音書/ 17章 12節**

**わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。**

**イエス様は、十字架の死から復活された後に、弟子たちと、この地上で生活を共にしながら、福音を人々に宣べ伝えられました。その時イエス様は、「御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。」と言われています。この時、イエス様が保護をしたのは、滅びの子であったユダ以外の全ての人たちと言うことです。イエス様は、もちろんユダ以外の１２使徒を保護し、イエス様を慕ってついて来る人達全員を保護し、そればかりでなく、十字架のそばで「十字架に付けろ」と叫んでいた民衆をも保護し、命を付け狙っていたファリサイ派や律法学者までも全ての人を保護したのでした。それは、彼らから永遠の命を取り去らなかったということです。イエス様がこの地上を私たち人間と共に歩まれた時、このように全ての人たちを赦し、祝福をお与えになりたがっていたそのイエス様のお姿を、私たちは、覚えていたいと願います。**

**しかし、今や、そのイエス様は、弟子たちの見ている前で昇天され、今は天の父なる神の右に座っておられます。今やイエス様は遠く離れたところに居られるようでありながら、そのイエス様が、この地上において、私たち一人ひとりを保護して下さって、永遠の命に至る道を確保して下さったという事実を覚える時、私たちは今、見えないところに居られるイエス様を、見えないからこそ、より身近にお迎えすることが出来るのです。**

**見えない物事は、私たちに対して、見えるものよりも、より大きな力をもって迫ってきます。見えないものに対する恐れは、私たちの命を飲み込むほどに大きく膨らんで行きます。この世における悪い者たちという言葉が、聖書に出て参りますが、実際、悪い者たちが悪い顔をして見えるように現れるのではなく、本当に悪い者たちは、見えない形で潜んでいて、私たちの本当の命である永遠の命を飲み込んでしまうほどに力を振るってしまう者であります。**

**私たちの悪との戦いが、霊的な見えないものとの戦いである（エフェソ6：12）と言われるのはこういう意味であり、実は、目に見えない霊的な戦いとは、目に見える弾丸飛び交う地上戦よりも格段に恐ろしいものなのです。**

**しかしそんな暗黒のおそろしい状況の中で、イエス様の救いの御言葉は光り輝いています。ヨハネによる福音書 17章 15節**

**わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。**

**イエス様は、今もなお、地上にいる私たちを思って、悪い者から守って下さい、と執り成し祈っていて下さいます。イエス様は、悪い者たちよりも強い御方です。イエス様のその力の源は、イエス様がもともとこの世で終わらない永遠の命を保持した聖なるお方であるからです。悪い者たちは、この地上で終わってしまう命しか持ちませんから、どうにか力を振るって、そっちのほうに向かう仲間を増やそうと誘ってきますが、私たちがイエス様の内にあり、又私たちもイエス様の内にある時、悪い者は、私たちの内から一蹴され、聖書にある通り（２コリ5：4）、死ぬはずのものが永遠の命に吞み込まれるということが起こるのであります。**

**大人たちは子供たちに比べ、この地上での歩みが長い分だけ、より多くの罪を知っており、又その罪に縛られているということもあるでしょう。そこらへんに、私たちが素直に「神様、私に永遠の命を恵んで下さい。イエス様についていきます。」と祈ることが難しい理由があるように思います。**

**最後に、大人にも子供にも同様に、深く広く響いて来る御言葉を共に味わいましょう。新しい聖書協会共同訳でお読みします。**

**ヨハネによる福音書 17章 19節**

**彼らのために、私は自らを聖なる者とします。彼らも、真理によって聖なる者とされるためです。**

**この聖句は、お手元の新共同訳聖書の訳とはずいぶん違いますので、今日の週報にも記載しておきましたが、ここでイエス様が祈られた、聖なる者とされるということは、私たちが永遠の命に呑み込まれるということであり、覚えておきたい、将に聖句であります。**

**この地上に下って下さったイエス様は、自らが聖なる者であることを身をもって証しをされ、そうして、本来、罪人である私たち人間を、聖なる者とされるために、キリストの道へと招いてくだいました。聖なる教会、聖なる御言葉、聖なるクリスマス、聖なる人々、近頃は、この聖なる、という言葉自体が人々の間で取り交わされることが少なくなってきたように思います。聖なるものも又、目には見えません。私たちは、見えないものに目を凝らしながら、聖なる喜びに満ち溢れ、最後までキリストの道を歩み、永遠の聖なる喜びを味わって参りたいと願います。**

**祈り**

**主よ、今、私たちが行っている地上における戦いが、あなたを悲しませていることを覚え、御前に悔い改め、あなたの憐れみと慈しみをこいねがいます。私たちを戦いへと駆り立てる悪い霊から、どうか私たちを守って下さい。ウクライナの人たちだけではなく、地球上の多くの地域で、見えないところで戦いが起こっています。イスラエルでも内戦が危機的状況を迎えています。どうか全てを見ておられるあなたが、全ての場所に聖霊を遣わし、大いなる御力によって、平和を実現して下さいますように。**

**悪い者との戦いは、各自の身近に迫っています。どうか私たち一人ひとりをあなたが常に聖霊によって守って下さい。絶望の中に希望を、悲しみのある処に希望をお与えください。**

**主よ、どうかこれから行われます教会総会の場を守って下さい。私たちが御心に適った話し合いの内に、今からの教会の歩みを見定め、教会を、あなたの希望、信仰、愛で満たしめ、次の世代が、あなたの身元で喜び楽しみ、御言葉が世にあふれ出る場所として下さい。**

**永遠の命の道を歩んでいる私たちが、日々あなたに守られ、日々与えられている恵みを、その都度味わっていく事が出来ますように。**

**父と聖霊と**